

ニセコ町新聞

2024年8月15日
田中学園立命館
慶祥小学校
4-1
宮島怜子

ニセコ研修での学び

私たち四年生はニセコ町に行き、地元の方へのインタビューとラフティング体験をしてきた。

道の駅でインタビューしてみると、地元の方々はニセコの自然と野菜が自慢だとい、散歩をするなど自然に触れることが大好きだと話していた。

ニセコとは北海道の西部、後志管内の中央に位置していて東に羊蹄山、北に

また、インタビューを行った道の駅「ニセコビュープラザ」という直売所は、「安心」「安全」「安

価」の三つの「安」を基本に販売を行っている。ニセコの農家の方々が行っている「安心」「安全」な野菜作りとはどういったことなのかについて調べる。

ラフティング体験！



尻別川のラフティング風景

私たちは羊蹄山のふもとから流れている全長百二十キロメートルの尻別川をゴムボートで下った。この川は水量や水質が安定しているためサケやサクラマスがのぼる川として有名で、流いきは北海道有数の農業地帯である。

が、流れが激しかったためパドルでこがなくても、ボートが揺れて気持ち良く下ることができた。また、途中で川の中に肩まで入り、ボートにつかまりながら下る体験もした。水は冷たく、暑い夏の日には最高に気持ちよかった。青緑色に光っていた水がとてもきれいだ。木の上にいる鳥や水に反射した緑色の木の葉がとても美しかった。私たちは見られなかったがボートの上から魚、リスも見る事ができるそう。地元の方がこの自然をすすめる理由がよくわかった。このきれいな川のおかげで美味しい野菜が育つことを実感し、きれいなままであってほしいと思った。

地元の方自慢の自然と農業



東に羊蹄山、北にはニセコアンヌプリ連ぼう、中央には「清流日本一」の尻別川。

安心安全な野菜づくり

道の駅でのインタビューで地元の方はトマトが特におすすめだと言っていた。調べてみると品種が多く、ニセコ産トマトジュースも根強い人気があると知った。トマトにすりおろしたやくみをかけて食べるとおいしいとお店の方が話していた。



ニセコビュープラザの安心安全なトマト

与えた塩トマトを作ったり、化学農薬や殺虫剤を使わずに有機ひりょうなどを使った土づくりをするなど工夫されている。さらに調べると、ニセコの農地は整備が遅れ小区画や急けいしや、排水不良などの悪い条件から生産性が低いことが問題だった時期もあったようだ。そのため、たくさんの方々が現在も減農薬・減化学ひりょうによるクリーン農業、土づくりに積極的に取り組んでいることを知った。これがニセコ町の安心安全な野菜づくりなのだ。

ニセコの土づくり

ニセコの美味しい野菜は土が健康でなければ作れないそう。農薬を使うことで病気や害虫や環境へのえいきょうが心配される。化学ひりょう

うも一時的な収穫量を多くするには効果があるが、土のバランスや質が変化し作物の育ちづらい土へ変わってしまうと知った。長く美味しいニセコの野

菜を作るためにニセコ農家の方々は、農薬や化学ひりょうにたよらず、たい肥などの有機ひりょうを使って健康な土を育てる取り組みをしていると知った。こういった環境にはいりよした安心安全な農作物の生産をすすめる農業のことをクリーン農業という。これは平

成十四年三月からニセコ町で「ニセコ町環境基本計画」として開始された。クリーン農業をすすめることで、河川や地下水へのおせんを減らし、ニセコ町の豊かな自然と地域文化を守り育てることにつながると知ることができた。

たい肥と有機ひりょう

たい肥とは牛や馬のウンチにワラなどを混ぜ長い時間をかけて作るひりょうのこと。有機ひりょうとは、たい肥、油カス（大豆や菜種から油をしぼった後に残るカス）、魚粉（魚を煮て水と油分をのぞき乾燥させたものだもの）、米ぬか（げん米を精米するときに出る粉）などを原料としたひりょうのこと。これらは畑をやわらかくしたり、土を元気にする働きがある。

クリーン農業

にんしょうマーク

北海道は、クリーン農業を行い基準を満たした農産物に認証マークをつける取



り組みを行っている。化学ひりょうや化学合成農薬の使用を五割以下にした「特別さいばい農産物マーク」、北海道内でさいばいされ、化学ひりょうや化学合成農薬の使用を三割以下にした「Yes! cleanマーク」、化学ひりょうや農薬をげんそく使用しない「有機JASマーク」がある。

ニセコビュープラザは、「Yes! cleanマーク」を直売所として初めて取り、現在九品目にマークをつけ販売している。

さらに、クリーン農業（化学ひりょうや化学合成ひりょうを減らす）は、温室効果ガスの発生をおさえ地球温暖化の防止にもつながっていると学んだ。

編集後記

ニセコ町は豊かな自然や川があり、安心安全な作物が育つことは当たり前だと思っていたが、新聞を書くにあたって調べてみてニセコ農家の方々の努力や苦労を知ることができた。さらに、積極的にクリーン農業

を行い工夫していることも学んだ。地元の方々がニセコの自然や農業を自慢する理由がよく分かった。私はニセコ町の「Yes! cleanマーク」の付いた野菜をたくさん食べ農家さんの協力をしたい。また、おいしさを周りの人に伝えていきたいと思う。さらに、今回学んだことを学校の環境を守る活動に生かしていきたい。